

## 第4回総合教育会議 議事録

1 日 時 平成28年11月22日(火)

開会 午前10時00分

閉会 午前10時53分

2 場 所 県庁16階 教育委員会室

3 出席者 知 事 三反園 訓  
教育長 古川 仲二  
教育委員 島津 公保  
教育委員 大富 あき子  
教育委員 今村 英仁  
教育委員 原之園 政治  
教育委員 石丸 恵子

### 4 議事の概要

県教育大綱関連事業について

#### 教育委員

- ・ 鹿児島県の教育に対しては、離島や過疎地が非常に多いという教育環境としては非常に厳しいものがある中で、教職員のがんばりや地域のサポートがしっかりしていて、全体には非常にバランスが取れた教育が行われていると思っている。
- ・ ただ、学力の問題とか、いじめ、不登校の問題、教職員の資質向上の問題等々、非常に課題も多いと感じている。
- ・ 学力の問題については、いわゆる専門的な学力向上という部分だけではなく、学習の態度などは好ましい結果が見られ、これらを合わせて考えていく必要性を感じている。
- ・ グローバル社会の進展や、日本の厳しい人口減少、その中での教育を考えたとき、より強く生き抜く力というものを求められていると思う。それらへの対応が、これから強く求められている。

- ・ 知事も、鹿児島県の生徒の積極性がないという話をしているが、3年前と去年行われた全国の高校生の意識調査結果でも、鹿児島県は、内向き思考であり、自己肯定感が全国平均と比べても低いという結果が出ている。
- ・ より外向き思考の考え方を子供たちにもっと持ってもらう必要があると思っており、グローバル教育の推進をしてほしいと思う。
- ・ そのためには、やはり留学制度や、教職員のもっと眼を開いた形の研修制度の充実が、結果的には繋がっていくのではないかと。
- ・ 鹿児島県の場合、どうしても限られた予算の中で実施するという状況にあり、国の制度を活用したものは出来るが、なかなか鹿児島県独自のものが出来ないということなので、知事と教育委員会が連携を取りながら、グローバル教育の推進を図ることによって、結果的に学力向上やいじめ対策等も含めた対策に繋がるのではないかと。

## 教育委員

- ・ 学校訪問で伊佐市立湯之尾小学校や南さつま市立坊津学園を訪問させていただいた。
- ・ どちらも1学年1学級で、100人くらいしか生徒がいない学校である。少子化で高校の受験倍率が1倍を切っており、勉強をそこまでしなくても高校に入れるところがあるというような状況の中、子供ものんびりしているのかなと思っていたが、どちらの学校も学力のテストに関しては県の平均を上回っている。なぜ県の平均を上回っているのかを考えると、やはり、一つの要因ではなく、いろいろなことがうまく回っているからだろうと思う。
- ・ 両校とも小中一貫教育を推進している学校だが、小学校に中学校の先生が来て教えるということもしていた。どちらの学校も地域住民の方々が非常に手厚く見守って、一緒に教育をするというスタイルで、非常に地域の方と距離が近い。学校の先生と子供たちの距離も非常に近い。そのような、いい教育がされているところで、テストの点数に関しては県平均を上回っており、それ以上に、いじめとか不登校とかそのようなものもない。
- ・ 一つの原因によってではなく、全てが良く回ることで、いい影響を与えて、いい影響を受けているということが、実際にあるので、そのような学校を増やしていくことが重要と感じている。

## 教育委員

- ・ 少子高齢化の問題はすでにあり、将来の鹿児島県においてもこの問題が起きると思う。
- ・ これまで教育の現場での色々な話を聞いてきて、まず育てるという部分での学力向上や生徒指導はすごく熱心に行われているが、その基盤となる部分と少子高齢化の問題を、もう別問題とは出来ないのではないか。
- ・ まだ鹿児島市はいいかもしれないが、地方に行くと本当に地域が壊れている。
- ・ 社会関係資本というソーシャルキャピタルの部分も、これが現在は非常に豊かだから、結果として教育もうまく行く。それから、いじめも少ないというのは、みんなが一緒になって育てていくからだと思う。ただ、その基盤となる地域社会が壊れつつあるということを、教育委員会でも、もう関係ないとは言えない時代なのではないか。
- ・ 先ほど高校の受験倍率が1倍を切ってるという話があったが、生徒さんが少なくなると小中学校も統合とか、高等学校も閉校しますとか、結果として人がいないからしょうがないという話もあるが、一方で、やはり教育の場所がなくなれば、若いお父さんお母さんは来ない。
- ・ それは医療の世界も同じで、患者さんももういないとなれば、病院がなくなる、診療所がなくなる。そこに加えて学校もなくなれば、そもそも若い人は居たくない。その悪循環が出来はじめているのではないか。
- ・ そうしたとき教育委員会としてはどうすればいいのかが課題。後ほど、ぜひ、知事の考えをお聞きしたい。
- ・ あと、もう一点、いじめ問題も、それを根絶というか、なくさないといけないが、一方で、実社会というのは正直理不尽なことで溢れてて、こういういじめなんて軽いよなど、また、グローバルに目を向けていくと、イスラム国の問題やテロの問題等、学校教育で言われたとおりには世の中は動いていない。

- ・一方では、いじめる側をどうにかしないといけないが、他方では、社会に出たときにそういう世界をたくましく生きれないといけない。そうしたときに、どう教育すればいいかというのは、学校の先生方も両方に挟まれて非常にかわいそうに思う。
- ・この2点については、なかなか答えが出ない。簡単に答えはないのだろうが、そのあたりについても知事の考えを出していただければと思う。

### 教育委員

- ・子供の教育については、知・徳・体、この3つの力を伸ばしていかないといけない。暴力行為の状況について、全国的に見ると鹿児島県ではかなり低い状況があるということは、心の面ではかなり醸成されてきたのではないか。
- ・ただ、いじめについては、鹿児島県も数年前に全国1位になって、非常に脚光を浴びた。それは鹿児島県の先生たちが1件でも見つけて1件でも解決するという結果の表れである。もちろんいじめはゼロにならないといけないが、この辺りの取組も真摯になされていると感じる。
- ・これから更に学力を伸ばしたり、いじめ・不登校をなくすためにはどうすればいいかということが大きな問題になる。先ほど話があった家庭教育について、学校から帰って家でもきちんと学校の復習をしているというのが、だいたい6割以上あった。更に増えてほしい。
- ・これについては、毎日こういった形で学習復習しているのかということを知りたい。
- ・それから、不登校の話について、学校では学級に1人か2人は不登校の生徒がいるようだ。担任は不登校の生徒がいると、その対応に非常に時間を要したり、あるいは連絡を取ったりしないといけない。担任としては当然しないといけないが、他の生徒のこともある。その対策として、不登校で悩んでる担任なり、先生方を支援するシステムについて詳しく説明がほしい。

### 教育委員

- ・質問だが、学力テストの高いところは、やはり同じように、学習態度も良いというような説明を受けたことがあるが、鹿児島では、授業中かなりよく勉強していたり、家庭学習は充実しているようなのに、学力向上となかなか結びついていないところはどこをどう考えているか。

- ・不登校とかいじめの状況に関して、不登校になるかならないかという子供たちに対するスクールカウンセラー等はすごく充実してきている。だが、なかなか学校に来られない、長く登校できない子供たちが、いじめられているのにわざわざその学校に行かなくてもよいのではないか。少なくとも逃げる方法もひとつはあると思う。
- ・そのようなときに、その学校の別室とか特別室ではなく、民間のところで過ごすような場所があることで、徘徊に繋がらないように出来ているのか。民間と協力して、学校に行かない子供たちの居る場所をつくる事が出来ているのか教えてほしい。

## 事務局

- ・家庭学習の状況について、数値上は高いが、家庭学習を毎日やっているのかどうかというところまで、データからはわからない。
- ・子供たちが、家庭学習をやっているという意識が高いので、チェックをつけている、家庭学習をやっているということにしていると思うが、そこははっきりわからない。しかしながら、県としては、これまでも家庭学習6090運動として、小学生は60分、中学生は90分、家庭学習に取り組みましょうということを進めてきているので、その成果がある程度は出てきているのではないか。
- ・学習状況はある程度良いが、結果が出ていないのは、家庭学習はやっているが、それが果たして子供の資質・能力を伸ばすような家庭学習になっているのかという観点では、机に座っている時間は長いですが、計画的に自分でこれを勉強しよう、明日の授業のためにこういう勉強しようとか、今日の授業でわからなかったところを復習しよう、というところまでしっかり出来ていない可能性があるのではないかと考えている。
- ・例えば、どうしても家庭の学習になった場合、ドリルのようなものはわかりやすい宿題だが、知識を増やすようなものだけではなく、思考力や表現力を高めるような宿題が、果たして学校から十分に提示されているかどうか。
- ・提示されたものについて、しっかり学校の先生がその子供たちを見取っているかどうか、その宿題をちゃんとフォローできているかどうか、というところまで併せてみないと、単に学習時間が長いということだけを手放しでほめるというのは危ないのではないかと感じている。

- ・ いずれにしても、地域との繋がりや、子供たちの素直な部分という色々な良い状況は、学習状況からある程度うかがい知るところがあるが、そもそも子供たちが学ぶ時間が一番長いのは学校の授業であるので、授業の中でしっかりと子供たちに考えさせる授業をもっと広げて、しっかりと充実させていきたい。そのところがスタート地点であり、そこを充実させる取組を行っていきたい。
- ・ チーム学校での取組については、これまでは不登校の子供をクラスに抱える担任に重い負担がかかり、その子供への対応でなかなかクラスの方に目が向かず、そこに新たな不登校が生まれるというような状況もあった。先生方が家庭に行っても子供と会えない状況等でも、福祉関係の方が家庭へ行かれるとその状況が改善できるなど、周囲の方々の協力も借りながらというのが、この事業の趣旨である。
- ・ このチーム学校での取組については、成果や、課題等も色々見えてくると思うので、それらを還元して、一部の先生に負担をかけることなく、チームとして、そして周囲の力も借りながら進めていきたい。
- ・ 不登校が長期間になっている子供への対応として、一つ目は適応指導教室が県内18市町にあり、平成28年5月31日現在で25施設に144人の児童生徒が通っている。適応指導教室では指導員の先生方が学習指導をしたり、コミュニケーション能力を高めたり、色々に対応をするが、指導員の先生方は学校との連絡調整など、様々な悩みを抱えているようであることから、県としては、課題解決に向けた研修会、連絡協議会等の準備をしているところである。
- ・ また、各教室には臨床心理士を2回ほど派遣しているが、緊急の場合には、いつでも県から派遣することが出来るようにしている。
- ・ なお、フリースクールについては定義がはっきりしていないという状況もあり、現在、不登校対策連携協議会の中で、何名かの代表の方々と情報交換、意見交換をする場をつくっている。今後は、このような活動をさらに広げて、学校に来られない子供に対して、チームで対応していきたい。一つは、学校に来られない、不登校の解消に進めない子供たちへの対応、もう一つは、学校で新たな不登校を生まないという二つの視点で対応をしていきたい。

## 知事

- ・学校がなくなっていくなど、いろいろな問題があって、今、鹿児島では少子高齢化、そして過疎化の問題、様々な問題がある。そして病院の問題、学校の問題。
- ・その一方で、都会で暮らす小学生ぐらいの子供を持つ親の中でも、もし環境を整えば、鹿児島とは限らないが、地方で暮らしてみたい、地方の良さを見直すという動きも一部で生まれていると思っているので、そのような環境を、いかに我々でつくっていけるかと、それも大事なかなと思っている。
- ・簡単ではないが、いずれにしろ市町村と県が連携しながら取り組んでいく。そこには教育費が非常にかかる、そのような教育環境、教育費の負担軽減、そのようなものも大事になってくるのかなと思うので、そのような環境を整えていく、そのような努力を今後やっていきたいと思う。
- ・実社会では理不尽なところがたくさんあるということであるが、そのとおりで、今、県は全国でも珍しいが、前回の議会で補正予算を組んで、子供の実態調査を県として初めて実施している。なぜそのようなことをやろうかと思ったかと言うと、貧困の問題だと思っている。生まれながらにして教育を受ける権利をなくしてはいけないわけであり、そのような学校に行けない、食べ物を食べられない、そのような鹿児島の子供たちの実態をまず調査して、その改善に取り組んでいきたい。
- ・人材育成なくして県の未来はないので、いかにして人材を育成して、学びやすい環境を整えるか、そのためには先生の質の向上ということも一部言われているが、そのようなことも大事なかもしれない。
- ・ある学校では数学のテストが飛躍的に伸びて、県で一番になったなど、そういった学校も生まれてきているので、先生の特色ある授業というものも大事になってくると思う。ある先生が、すごく生徒の成績を伸ばした、どうしてそのようになったという辺りを県内のみんなでも共有していくことも大事だと思っており、今後、様々な取組が求められていくと思う。
- ・もうひとつは、やはり発表する力。以前、鹿児島の大学で授業をしたときに、「これってどう思いますか、将来どうですか」というと、皆さん一人も手を上げない、逆にみんな下を向く。それが今の現状かと思う。

- ・ 早稲田大学を別に評価するわけではないが、私は早稲田大学の大学院で先生を十数年やっていたので、そのときは「これってどう思うか」って言ったら、すぐ反応がある。そのようなところの差は、どこにどうあるのだろう。私なりに色々な形で鹿児島の大学とも提携しながらやっていきたい。
- ・ その根本はどこにあるかという、小学校にあると思う。小学校のときに学んだことで、実は忘れられないことがたくさんあり、小学校のときにみんなの前で発表する、そのような機会を設けることで発表する力を養っていく。そのようなことも今後、鹿児島には求められると思う。
- ・ もう一つは、英語教育についても、中・高・大学で学んで英語をしゃべれないという実態はいかがなものかと思う。言うは易しですが、鹿児島で学んだ人は英会話が出来るみたいなことをやることによって、将来がより開けてくることにも繋がってくると思うので、今後、そこにも力を入れていければと思う。
- ・ いわゆる実践的な教育も大事である。働いたときに何が大事かという、発表する力、プレゼン力、そのようなものも非常に重要視されるので、その辺りも含めてやっていきたいと思う。
- ・ もう一つは、特色ある授業も求められていくと思うので、様々なことについて、今後、鹿児島県としても取り組んでいきたいと思う。
- ・ 教育には随所力を入れていきたいと思っているので、引き続き皆様方の、御意見や力添えをお願いできればと思う。
- ・ このような意見交換をすることが非常に大事だと思っており、現場の声を聞く、そこにヒントがあると思う。
- ・ 私も教育の現場に訪れて、いろんな意見を聞きたいと思っており、引き続き、皆さんの御意見を聞かせていただきたいと思う。
- ・ 一つ、学力調査で質問があるが、平均の点数が1違うが、どうなっているのか。つまり、いい人がよくて、このような差があるのか、だいたい平均してみんなこうなのか。

## 事務局

- ・ 本県の児童生徒の学力の分布を見ると、なだらかな山を描く曲線になっている。曲線の山の頂点はだいたい全国の平均とほぼ同じであるが、上位に向かって全国よりも少し低くなるような曲線が、ここ数年続いている。
- ・ 実際に現場で何が起きているのかというと、現場の先生方は非常に熱心で、なかなか勉強についていけないという児童生徒には、机の横についてしっかり教えている姿を何度も見ている。しかし、その間に、自分の課題が終わった子供が手持ち無沙汰にしているといったこともある。
- ・ 成績が上位の生徒、もう既に課題が終わっている生徒にも配慮した授業づくりも必要になってくると考えている。

## 知事

- ・ 教員OBの活用は、どれくらい進んでいるのか。

## 事務局

- ・ 教員OBの活用については、様々な事業にボランティアとして協力している。例えば、地域での学習支援などに活用されている。
- ・ しかし、全ての学校で教員OBを活用して、放課後あるいは週休日等に学習支援を行うなど、組織的に行うというところまでは行っているわけではなく、それぞれの学校の取組に任されているという状況である。

## 知事

- ・ 皆さんの御意見もお聞きしたいが、学びたい意欲がある人に、教員のOBの方が教える、しかも、お金は無料と言った形の中でやっていく取組を県としてもやっているところということだが、そのようなことを、もっと加速させていきたいと思うが、皆さん方の御意見はいかがか。

## 教育委員

- ・ これは、テレビで大分県の取組が放映され、大分県がかなり組織的に取り組んだ結果として地域の力が上がっていきとされていた。鹿児島でも同じような取組は始まってはいるが。

- ・OBの先生方や地域の人も巻き込んで、しかも、NPO的な、費用が大きく発生しないけれども高い効果を生んでいるという意味では、さきほど知事が言われたように、すごく前向きに取り組むことはいいこと、いい方向ではないかと思う。

#### 知事

- ・鹿児島県としては、もっともっと積極的に取り組んでいきたいと思う。

#### 教育委員

- ・県立高校で言えば、このような全生徒の学力に関する補習授業等も含めて、かなり充実してると思う。しかし、地域的にうまくいっていない地域もあるので、そのようなところに、OBの先生方をうまくもって来られれば、バランスが良くなって、全体的な鹿児島のレベルが良くなるのではと思う。

#### 教育委員

- ・確か始良市とか伊佐市で、教員のOBが、土曜日などに子供たちを集めて簡単に授業をしたり、あるいはわからないところについての質問を聞いたりといった活動は聞いたことがある。
- ・しかし、それが県下全域に、県の事業としては高まってはいると感じる。
- ・高校では、生徒はわからないところを、放課後等、いつでも先生に聞きに行ったり、そのような形で対応している。

#### 知事

- ・そういう形で、先生と生徒が一体となって、思いを一つにグッと来ればいい。生徒をやる気に乗せることも大事だし、やる気のある生徒を伸ばしていく先生の力、そのようなものが大事かと思う。教育は本当に大事だと思っている。

#### 教育委員

- ・大隅の方の高校再編の話をしたい。なぜ、大隅から隣県の都城に優秀な生徒が行くのだろうか。それは、都城に塾があるから。生徒たちは都城の塾に行くと、当然都城の学校を勧められると思う。そうして都城の学校に行くという話を聞いているが、ちょっと残念だなと思った。そのようなところこそ優秀なOBの先生がいて、もっと多くの先生がいればいいと思う。

## 教育委員

- ・OBの先生は、もちろん学習のプロであるので、教えていただくというのは良いことかなと思う。
- ・一方で、塾の費用を払えなくて知り合いの女医さんに教えてもらったことで医師の道を志して学校に行ったという生徒の話も聞くので、いろいろな職業の方、大人の方と、またはボランティアの方と、一緒に協力してもらうことで、社会にどのような仕事があるかということを具体的に話せるようになると、もっと学習意欲がわくのではないかなと思う。
- ・いろいろな方たちの御協力をいただくことと、県で色々取り組んでいることを周知する工夫をすることが大事だと思う。

## 知事

- ・委員が言われたことも、すごく大事だと思う。県の取組として、たくさんいろいろなものを行っていることを周知することは、すごく大事だと思う。それについても取り組んでいきたいと思っている。
- ・今日は有意義な会議が出来たと思う。今後とも教育委員会、皆様方と連携を図りながら、鹿児島県の教育向上、いじめをなくす、人材育成に取り組んでいきたいと思っている。